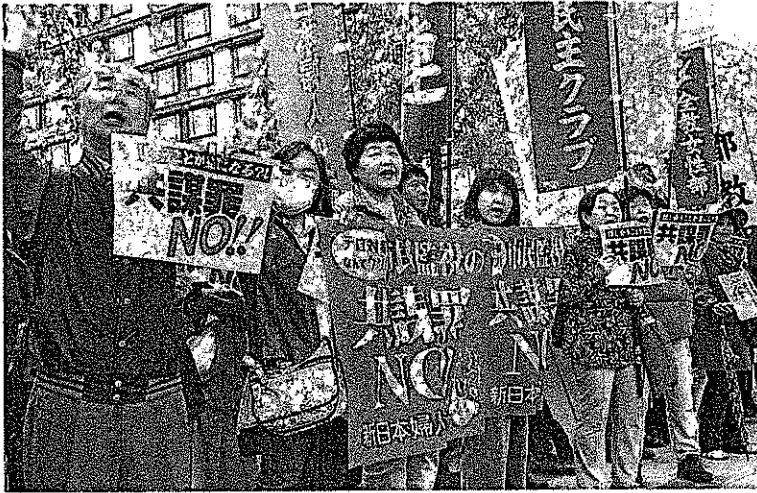


「共謀罪」法案を廃案に

監視社会は許さない

議員会館前行動



「共謀罪」法案の廃案を求める人たち。10日、衆院第2議員会館前

危険性知らせていこう

「共謀罪」法案を廃案へ追い込もうと、国会周辺では連日行動が取り組まれています。10日昼の衆院第2議員会館前では、「総がかり行動実行委員会」と「共謀罪NO！実行委員会」が呼びかけた集会が行われ、「テロ対策とどうつくえな」「監視社会は許さない」とこぶしを上げました。議員会館前には450人（主催者発表）が集まりました。7カ月の息子を抱いて参加していた、千葉県市川市の女性（27）は、初めて集会に足を運びました。「戦争につながる共謀罪も、憲法9条の改憲も反対です。絶対に子どもを戦争に行かせないために声をあげたい」と語りました。

主催者を代表して、憲法共同センターから弁護士に加藤健次さん（自由法曹団幹事長）

「政府の答弁はあまりにもうそが多い。私たちが法案の危険性を明らかにしていけば廃案に追い込めます」と訴えました。

代表、日本共産党の畑野君枝の両衆院議員、社民党の福島瑞穂副党首（参院議員）が参加。

「力を合わせて『共謀罪』法案を廃案に追い込みましょう」と呼びかけました。

生きている限り平和を守る

全商連副会長 鎌田保さんスピーチ

10日、「共謀罪」法案の廃案を求めて衆院第2議員会館前で行われた集会で、全国商工団体連合会（全商連）副会長の鎌田保さんがマイクを握りました。1931年生まれの85歳。「戦争体験者として生きている限り、平和を守る決意です」と訴えたスピーチ（要旨）を紹介します。

民となった地元の人たちに襲撃され避難民となりました。ソ連兵の暴行、略奪、暴行は、当時14歳の私の目に焼きついています。母乳の出ない母がひねた粟（あわ）を口でかみ、だ液とともに飲ませていた妹は栄養失調で死にました。そして荒野に葬ってしました。この命を思うと戦争はう。

戦後最悪の安倍政権を、一日も早く国政の場から追放しなくてはなりません。戦争体験者として生きている限り、平和を守る決意です。一緒に頑張りましょう。

私たち国民は、かつて国にだまされ戦争に駆り立てられました。国民を戦争へと動員するには、反対する声に封じる必要がありました。それが戦前の治安維持法でした。これを繰り返そうとしているのが安倍政権です。1944年4月、私は高等小学校1年生で、家族7人と満州へ渡りました。関東軍100万と、神風が守られていたと信じ込んでいました。1945年8月15日に敗戦を迎えた翌日、暴



自身の体験を語る鎌田保氏（右）＝10日、衆院第2議員会館前